

令和4年度実施施策に係る政策評価書

(環境省R4-27)

施策名	目標6-1 環境リスクの評価					
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価する。					
達成すべき目標	①一般環境中の化学物質の残留状況を調査し、基礎資料として施策の策定に活用する。 ②化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。 ③化学物質の内分泌系かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が環境中の生物に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。 ④子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。					
施策の予算額・執行額等	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況 (百万円)	当初予算(a)	6,217	6,260	6,260	6,199
		補正予算(b)	600	600	600	-
		繰越し等(c)	-	-	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	6,817	6,860	(※記入は任意)	
執行額(百万円)	6,634	6,750	(※記入は任意)			
施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)					

測定指標	①化学物質環境実態調査を行った物質(群)・媒体数	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	×
		-	97	95	81	72	64	80	
	年度ごとの目標値		/	80	80	80	80	80	/
	②環境リスク初期評価実施物質数	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	×
		-	17	16	15	15	12	14	
	年度ごとの目標値		/	14	14	14	14	14	/
	③内分泌かく乱作用に関して、文献等を踏まえ評価対象として選定した物質数(累積)	基準値	実績値					目標値	達成
		H27年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	○
		132	184	198	209	219	231	230	
	年度ごとの目標値		/	160	180	200	220	230	/
	④子どもの健康と環境に関する全国調査の進捗状況	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R14年度	○
		-	参加者追跡率(96%)	参加者追跡率(95%)	参加者追跡率(95%)	参加者追跡率(94%)	参加者追跡率(93%)	全国10万組のデータ解析を行い、健康と環境の関連性を明らかにする。	
年度ごとの目標		/	事業成果の情報発信及びフェノール類化合物等の化学分析の実施	事業成果の情報発信及びフタル酸エステル代謝物等の化学分析の実施	事業成果の情報発信及び残留性有機汚染物質等の化学分析の実施	事業成果の情報発信及びピレスロイド系農薬代謝物等の化学分析の実施	事業成果の情報発信及び農薬・忌避剤等の化学分析の実施	/	
年度ごとの目標		/	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	/	

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり (判断根拠) ①化学物質環境実態調査では、関連施策の担当部署からの要望に基づき、調査を行っている。R4年度の実績は64物質(群)・媒体について調査を行ったが、目標値を下回っている。これは、複数の物質が含まれる物質群として(R4年度では最大7物質を含む1物質群など)要望があり、またその要望数も例年より多かったためである。仮に、こうした物質を個別にカウントした場合、目標を超える物質数となる。 ②環境リスク初期評価のための基礎情報の収集・検討作業を推進し、12物質について環境リスク初期評価を取りまとめ、公表したが、目標値を下回っている。これはリスク評価の実施にあたっては有害性情報・モニタリングデータ等の基礎情報を収集した上でリスク評価の実施可否を判断することになるが、評価に足る科学的知見が存在しない候補物質が多かったためである。 ③化学物質の内分泌かく乱作用については、文献調査等を踏まえた評価対象物質の選定数について、令和4年10月に策定した「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応—EXTEND2022—」において想定した内容を概ね達成した。(R4年度までの累積:目標値230、実績231) ④子どもの健康と環境に関する全国調査については、フォローアップ状況を示す指標である追跡率を高値で維持できており、また、化学物質の分析も進捗しており、目標を達成した。
	施策の分析 次期目標等への反映の方向性	

学識経験を有する者の知見の活用	①化学物質環境実態調査については、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいている。 ②環境リスク初期評価に関しては、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいている。 ③化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会等において専門的な検討をいただいているところ。 ④子どもの健康と環境に関する全国調査については、エコチル調査企画評価委員会等において、本調査の企画、実施内容の評価及び本調査の成果の情報発信に係る方策等について、検討いただき、調査の内容等に反映している。
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	①令和4年度化学物質環境実態調査の進捗状況(中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会(第28回)資料2-3) ②化学物質の環境リスク評価(第21巻) ③「令和4年度第2回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会」資料等 ④参加者ステータス集計表(コアセンター作成)、研究の進捗について(令和4年度第2回エコチル調査企画評価委員会資料1-2)
---------------------------	---

担当部局名	環境保健部 環境安全課 環境リスク評価室	作成責任者名	吉川 圭子(環境安全課長) 清水 貴也(環境リスク評価室長)	政策評価実施時期	令和5年8月
-------	----------------------------	--------	-----------------------------------	----------	--------